

# 30日 木曜

## 詩篇

### 26 ダビデによる

26:1 私を弁護してください。主よ。私が誠実に歩み、よろめくことなく、主に信頼したこと。

26:2 主よ。私を調べ、私を試みてください。私の思いと私の心をためしてください。

26:3 あなたの恵みが私の目の前にあり、私はあなたの真理のうちを歩み続けました。

26:4 私は、不信実な人とともにすわらず、偽善者とともにに行きません。

26:5 私は、悪を行なう者の集まりを憎み、悪者とともにすわりません。

26:6 主よ。私は手を洗ってきよくし、あなたの祭壇の回りを歩きましょう。

26:7 感謝の声を聞こえさせ、あなたの奇しいみわざを余すことなく、語り告げましょう。

26:8 主よ。私は、あなたのおられる家と、あなたの栄光の住まう所を愛します。

26:9 どうか私のたましいを罪人とともに、また、私のいのちを血を流す人々とともに、取り集めないでください。

26:10 彼らの両手には放つつがあり、彼らの右の手はわいろで満ちています。

26:11 しかし、私は、誠実に歩みます。どうか私を贖い出し、私をあわれんでください。

26:12 私の足は平らな所に立っています。私は、数々の集まりの中で、主をほめたたえましょう。

心に罪のない人は、苦しみにあっても、確信を持って大胆に主に求めることができます。しかしながら聖書では、謙遜になって罪を認めることを教えていますし、ダビデ自身がそのように謙遜でもあります。



①神のみこころは？（信仰のあり方、希望の約束、愛の満たしなど）

ました。どう理解したら良いでしょうか。

これはダビデがサウルから命を狙われているときの歌と思われます。ダビデはサウルから全くの言いがかりで、責められ殺されそうになるのですが、彼はサウルに対してさえ、そうであることを尊重し、手をかけることをしませんでした。

ここダビデの無罪の確信があると思われます。つまり、自分が命を狙われているという、このサウルとの関係においては、神様から責められるようなことはないということではないでしょうか。

私たちも全く罪はないなどということはできません。しかし、だからといって、どうせ自分は神様に祈りは聞いてもらえない。いまさら従つても無駄だとは思わず、自分が今関わっている問題に対しては、正しくありたいという願いを持つことが大切なではないでしょうか。

②どんな思いになりましたか？（感情や願いなど）

③生き方にどう適用しますか？（あなたのどの部分を主は扱おうとしておられますか）

④この世にあって何を実践しますか？

